

水質モニタリング技術計画フェーズⅡ 合同調整委員会」開催

11月16日、パナマ市内のホテルで「水質モニタリング技術計画フェーズⅡ 合同調整委員会」が開催されました。本セミナーには、シルバノ・ベルガラ (Silvano Vergara) 環境庁副長官やニナ・カリニーナ (Nina Kalinina) 環境質保護局長を始めとする環境庁関係者や、ANCON などの当地環境 NGO などの関係者が出席しました。

また、日本側からは、表 JICA パナマ支所長や、伊藤 JICA 専門家などのプロジェクト関係者が出席しました。

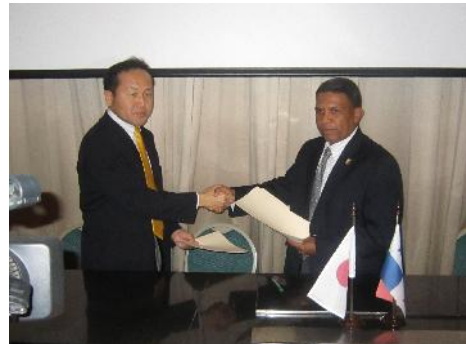
フォーラムの中では、2008年より実施されてきたプロジェクトの成果報告が発表された他、今後の実施計画について、JICA 及び ANAM との間で合意されました。

ベルガラ環境庁副長官は、同計画フェーズⅠ及びフェーズⅡに対する日本の技術協力に感謝を示すとともに、パナマでは、一般的に飲料水はよいと言われている一方で、国内の河川は汚染が進んでおり、真に世界で誇れる水を追求していく必要があると述べました。

一方、表 JICA 所長は、合同調整委員会が開かれたことを嬉しく思うとともに、プロジェクトの目標達成に向けて、引き続き協力していきたいと述べました。



合同調整委員会の様子



ミニッツの交換 (伊藤専門家 (左) とベルガラ副長官 (右))

水質モニタリング技術計画フェーズⅡ」

- ①実施機関 (環境庁 ANAM)
- ②実施期間 :2008年11月～2012年11月
- ③案件概要 :パナマでは、国内の河川の水質汚濁は深刻な状況となっている。こうした背景を踏まえ、JICA (環境庁 ANAM) とともに「水質モニタリング技術計画」をフェーズⅠとして2003年10月より3年間実施したが、分析精度・技術はまだ初歩的なものである。このため、フェーズⅡとして、サンプリング・分析技術能力の向上、及び環境モニタリングに基づく科学的知見を提供する能力強化のための協力を行うものである。
- ④成果目標 :
 - 1.サンプリング・分析技術能力が向上する。
 - 2.QA/QC 手法が改善される。
 - 3.環境モニタリングに基づく科学的知見を提供する能力が強化される。